

『新編みなかみ紀行』

若山 牧水／著 池内 紀／編
岩波書店 2002

酒と旅の歌人と言われる若山牧水。歌集や随筆集など、どの本もおすすめです。この本は牧水の代表的な紀行文を集めた本。彼の目に映った景色や出会った人々の様子が生き生きと目に見えるようです。

『幸福な王子：童話集』

オスカー・ワイルド／作
富士川 義之／訳 岩波書店 2020

漱石や鴎外、芥川にも影響を与えたとされるワイルドの童話集。献身的な人間愛で他人の幸福を願う主人公たち。人生を豊かに、幸せにする『宝物』は、冒険の旅に出かけなくても、案外すぐそこにある。

『マン島の黄金』

アガサ・クリスティー／著
中村 妙子／〔ほか〕訳 早川書房
2004

ミステリの女王アガサ・クリスティーの死後に発掘された作品集。表題作は、実在するマン島の観光客誘致のための宝探し懸賞小説。他にミステリ、心理サスペンス、ロマンスなど「クリスティー最後の贈り物」が満載。

『人生なんて無意味だ』

ヤンネ・テラー／著 長島 要一／訳
幻冬舎 2011

舞台はデンマークの田舎町。全ての無意味さを主張する少年とそれに反論するクラスメイトたちの物語です。意外な結末に“大切なもの”について考えさせられます。皆さんの“大切なもの（宝物）”は何ですか？

『木はいいなあ』

ユードリイ／作 シーモント／絵
偕成社 1990

季節で移り変わる木の様子や、動物や子どもたちが木の周りできいきと遊ぶ姿が、やさしい言葉でつづられている絵本です。大人の方もぜひ、木がある風景の中でゆったりと流れる時間を味わってみませんか。



発行：福岡市総合図書館・分館
2020年10月



福岡市図書館マンスとは？

福岡市の図書館では、2008年に分館も含めた全館で統一テーマによる特集展示を行ったことを皮切りに、毎年統一テーマ展示を行ってまいりました。2014年よりそれをさらに発展させ、より皆様に楽しんでいただける図書館、親しみやすい図書館を目指して、読書週間のある10月を「福岡市図書館マンス」として、毎年各館で趣向を凝らした展示・イベント等を行っています。

『福岡博覧』

福岡市博物館／監修 海鳥社 2013

歴史・文化・自然・観光など、福岡市をあらゆる角度から紹介した、お役立ちな一冊。これを読めば、福岡市の魅力をより広く、より深く知ることができます。「福岡検定」の公式ブックにもなっています。



図書館には、あなたが未だ見ぬ宝の本が眠っています。この宝の地図を手掛かりに、知の大海原を漕ぎ出して「図書館たからじま」を探検しよう！あなたにとってかけがえのない素敵なお宝に出会えますように……

図書館たからじま案内人 おすすめのお宝本

『英語で楽しむ福岡の郷土料理』

Recipes of Fukuoka
津田 晶子／著 松隈 紀生／著
クリ・マドナルド／著 トム・ケイツ／著
海鳥社 2020

福岡の食文化、四季折々の福岡の「うまかもん」を紹介。段階を追って調理の手順を日本語と英語で解説すると共に、それぞれの料理や素材についての背景知識も収録。日本でも数少ない外国語の郷土料理レシピ集。

『ちっちゃな科学』

：好奇心がおおきくなる読書
&教育論』

かこさとし／著 福岡 伸一／著
中央公論新社 2016

いつも心に“センス・オブ・ワンダー”を！二人の思いが詰まった小さな宝箱のような一冊。かこさんの人気絵本や科学絵本、福岡ハカセのおすすめ本が満載。人生や学びについて、対談やQ&A、ブックガイドも収録。

『眺望絶佳の打ち上げ花火』

：花火の名前や特徴がわかる
ビジュアルブック』

金武 武／著 日本煙火協会／監修
玄光社 2017

疫病退散を願って始まったと言われる打ち上げ花火。色とりどりの美しい写真とともに、花火の特徴が紹介されています。花火大会の中止が多い分、夜空を彩る花火の写真を眺めて雰囲気だけでも味わってみては？

『世界の郷土料理事典』

：全世界各国・300 地域料理の
作り方を通して知る歴史、文化、宗教
の食規定』

青木 ゆり子／著 誠文堂新光社 2020

この本で世界の料理を作ったら、クルーズ船での世界一周旅行気分!になれるかもしれません。トルコのバクラヴァの作りやすいレシピがあれば、悲惨な過去も書き換えできたと。パステイツツイに挑戦するかあ。

『ボッティチェリ全作品』

ボッティチェリ／[画]
高階 秀爾／編著
鈴木 杜幾子／編著
中央公論美術出版 2005

ルネサンス初期を代表する画家ボッティチェリの全ての作品と詳しい解説が載っています。市内にこれ一冊しか所蔵がありません。いわゆる、西部図書館の「お宝本」です。大きな本ですが、ぜひ予約してご覧ください。

『任意の点 P』

：3D stereo book』

慶応義塾大学佐藤雅彦研究室、
中村 至男／作品制作 美術出版社
2003

折り畳み式のレンズで各ページを覗くと美しい立体が広がる。2003年出版だが、いらぬものをそぎ落とした世界は新鮮に映る。バーチャル・リアリティが身近になった今こそ、この本で立体が見える喜びを感じてほしい。

『今日はなぞなぞの日』

フジモト マサル／著 平凡社 2004

1ページ1問のなぞなぞとそれに因んだイラストの構成になっている本作。可愛らしい絵柄に侮っていると、一日中なぞなぞに悩まされることでしょう…。全問を自力で答えられた暁には、この本が宝物になること請け合いです。

『八木重吉詩集』

八木 重吉／著 鈴木 亨／編
白凰社 1974

心が疲れた時に効く詩集ですよ。「はらへたまってゆく かなしみ」どうです？この作品名！私のお薦めは「不思議」という一編。純粹でキラキラ透明な世界に心が軽くなります。あなたの宝になる言葉を探しましょう。

『徒然王子（第1部／第2部）』

島田 雅彦／著 朝日新聞出版
(2008／2009)

ダンテの神曲さながら、暗い森の中に住む不眠症の王子は、妃(宝)を探して家を出、日本(島)を彷徨う。ドン・キホーテのように従者を連れて。ちょっと毒のある島田雅彦ワールド、色々ありますがあくまでフィクション。